

「気持ちや考えを伝え合うコミュニケーションスキル」の指導方法の研究

岡山市中学校通級教室グループ

活動の目的

通級指導教室に通ってくる生徒は年々増加しており、岡山市内で50人を超えている。友達との関わり方やコミュニケーションに苦手意識をもっており、自己肯定感も低く、在籍校での集団生活にストレスを感じる人が多い。

そのため、通級指導教室では教師との1対1の指導を基本に、コミュニケーションに必要な「語彙力」や「伝え方」や「聞き方」を学習しているが、同級生とのコミュニケーションには、まだ十分生かされていない。そこで、今回は特に少人数のグループでの「気持ちや考えを伝え合うコミュニケーションスキル」向上を目指し、教材や指導方法の研究を行うことにした。

活動の内容及び経過

(1) 指導方法（グループ編成、教材選定、指導時の留意点）

今回の対象は、これまでの通級指導により1対1の指導場面ではスピーチや質問がスムーズに行えるようになった中学2年生でグループ指導を行った。グループ指導は、性別や特性、興味関心を考慮して1年時から2人組のグループを始めている。2年生からは、お互いの意見を出し合いゲームのルールを考えたり、クイズを作って解き合う課題を行っている。

(2) 指導実践の一例

①「みんなの意見deそれ正解！」 ※出典1

めあて：友達の考えを想像して、みんなで答えを合わせよう。

自分と友達、考えの違いを認めよう。

今回生徒は、「『う』のつく美味しい食べ物」「有名なアニメのキャラクターといえば」など、提示されたお題に対する答えを書く。その際、「友達と答えを合わせる」ことが目的なので、「僕は〇〇だけど・・・、他人は何を書くかな？」と他者を意識させることが必要となる。そして、答えが合わなかった時には、違いを認めることも大切である。相手を認める言葉として、「(なるほどー・確かに！・うんうん) カード」を机の上に置き、あいづちの言葉とタイミングを学べるようにした。

②「印象ゲーム」 ※出典2

めあて：友達の考えと比較しながら、「同感」と「共感」を知ろう。

最初に、「同感とは？(同じように感じること)」、「共感とは？(他人の意見や話をその通りだと感じること)」を考えさせ、めあてを説明する。そして、「春が好き・秋が好き」「都会・田舎」など2択問題を15問、自分どちらを選ぶか理由も考えて書く。その後、選んだものとその理由を発表していく。友達が自分と同じものを選んでいても、考え方や理由は違うことがある。また、自分とは違うものを選んだ場合でも、理由を聞くと納得できる。この活動を通して、自分の好みや傾向を知ると同時に、新たな視点と友達への気づきを学べるようにした。

※1 出典「特別支援教育をサポートする ソーシャルスキルトレーニング (SST) 実践教材集」ナツメ社

※2 出典「構成的グループエンカウンターミニエクササイズ50選(中学校版)」吉澤克彦 編著 明治図書



活動の成果・効果

「みんなの意見deそれ正解！」は、活動を進めていくと「今度(お題)は合いそう!」「あー、なるほど・・・」という言葉と共に、答えを合わせようという気持ちや、友達の発想を認めて楽しむ雰囲気が見られた。おとなしい生徒も今回は、「いつもより人数が多くて、白熱して楽しかった。」という感想を書き、人数が増えると楽しみも大きいと肯定的に受け止めることができていた。

最後に、「友達に言われたら、うれしい言葉は？」というお題を出した。4人の生徒の答えはすべて「ありがとう」、4人と指導者でハイタッチをして指導を終えることができた。

また「印象ゲーム」では、こだわりが強い生徒も、お互いに選んだ理由を聞くことで、人の感じ方や考え方の違いを知り、「自分とは違うけど、相手の理由を聞いたなら納得できた。」という「共感」を理解することができていた。

最後に、今回の2つの実践から、グループ指導での「コミュニケーションスキル」の指導ポイントをまとめる。

- ・生徒間をつなぐことができる教材や活動の一工夫。
- ・学習活動を区切り(考える・書く・話す・聞く等)テンポよく進める。
- ・好ましいあいづちや言葉、態度が見られたら、即座に強化する。「いいねー、それ!」

今後の課題と問題点

通級指導では、グループ活動にも安心して取り組むことができています。しかし、日常生活では会話のスピードが速く、意味の取り違えや発言の機会を失うことも多く、ストレスや不安感を感じやすい。

- 代表者：藤本直子 ●所在地：岡山市南区三浜町
- TEL：086-262-1178
- 設立年：2007年 ●メンバー数：3名

<共同研究者>
岡山市立石井中学校通級指導教室
齋藤 実・難波典子